

平成 20 年 10 月 8 日

平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間及び通期の業績予想の修正
並びに有価証券評価損に関するお知らせ

株式会社第三銀行（頭取 伊藤準一）は、平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間および通期の業績予想を別紙のとおり修正いたします。

また、保有有価証券のうち、時価が著しく下落し、その回復が見込めないものについて、平成 21 年 3 月期第 2 四半期において減損処理による有価証券評価損を計上いたします。

今回の損失処理を行った後におきましても、引き続き不良債権の割合は 3.5%以下と低い水準を維持する見込みであります。また、安全性を示す自己資本比率は 8.5%以上となる見込みであり健全な経営体質を維持しております。

なお、今回の赤字は金融市場の混乱にともなう一過性のものであることから、配当はこれまで通り 1 株あたり年間 5 円（中間配当 2 円 50 銭）を維持する予定です。

引き続き地域金融機関として地域経済の発展に尽くし、お客さまに信頼され親しまれる銀行を目指して努力してまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

以上



平成 20 年 10 月 8 日

各 位

会 社 名 株式会社 第 三 銀 行
 代 表 者 名 取締役 頭 取 伊 藤 準 一
 (コード番号 8529 東証第 1 部 名証第 1 部)
 問 合 せ 先 取締役 総合 企画 部長 岩 間 弘
 (TEL 0598-23-1111)

平成 21 年 3 月 期 第 2 四 半 期 累 計 期 間 及 び 通 期 の 業 績 予 想 の 修 正 並 び に
 平成 21 年 3 月 期 第 2 四 半 期 末 の 有 価 証 券 評 価 損 に 関 す る お 知 ら せ

平成 20 年 5 月 14 日に公表しました平成 21 年 3 月 期 第 2 四 半 期 累 計 期 間 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日) 及 び 通 期 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日) の 業 績 予 想 を 下 記 の と お り 修 正 い た し ま し た の で お 知 ら せ い た し ま す。

また、「その他有価証券」に区分される保有有価証券のうち、時価が著しく下落し、その回復が見込めないものについて、平成 21 年 3 月 期 第 2 四 半 期 に お い て 減 損 処 理 に よ る 有 価 証 券 評 価 損 を 計 上 す る 必 要 が 生 じ ま し た の で お 知 ら せ し ま す。

記

1. 業績予想の修正について

(1) 平成 21 年 3 月 期 第 2 四 半 期 累 計 期 間 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)

① 単 体 (単位: 百万円)

	経常収益	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	19,700	2,700	1,600
今回修正予想 (B)	21,150	△7,000	△4,800
増減額 (B-A)	1,450	△9,700	△6,400
増減率 (%)	7.4%	△359.3%	△400.0%
〈ご参考〉 前年同期実績(平成 19 年 9 月 期)	21,883	3,771	2,007

② 連 結 (単位: 百万円)

	経常収益	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	23,800	2,720	1,605
今回修正予想 (B)	25,250	△6,980	△4,795
増減額 (B-A)	1,450	△9,700	△6,400
増減率 (%)	6.1%	△356.6%	△398.8%
〈ご参考〉 前年同期実績(平成 19 年 9 月 期)	26,220	3,864	2,015

(2)平成21年3月期通期(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

①単体

(単位:百万円)

	経常収益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	40,300	6,500	3,800
今回修正予想 (B)	40,900	△5,600	△3,900
増減額 (B-A)	600	△12,100	△7,700
増減率 (%)	1.5%	△186.2%	△202.6%
〈ご参考〉 前期実績(平成20年3月期)	45,393	2,191	1,031

②連結

(単位:百万円)

	経常収益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	48,400	6,610	3,810
今回修正予想 (B)	49,000	△5,490	△3,890
増減額 (B-A)	600	△12,100	△7,700
増減率 (%)	1.2%	△183.1%	△202.1%
〈ご参考〉 前期実績(平成20年3月期)	53,799	2,312	1,057

(3)第2四半期累計期間及び通期の修正理由

昨年のサブプライムローン問題に端を発した世界的な金融資本市場の混乱により、保有有価証券の減損処理を実施したことに加え、経済環境の悪化によりランクダウン先が増加し、信用コストが当初計画を上回る見込みとなったことなどから、経常利益、当期(中間)純利益ともに当初予想を下回る見込みとなりました。

今回の修正は、上記のとおり金融市場の混乱による有価証券の減損処理が主因であり、預金・貸出金等の本来業務については順調に推移しており、コア業務純益は当初予想を上回る見込みです。不良債権比率についても、3.5%以下の低い水準を維持できる見込みであります。また、銀行経営の健全性を示す指標であります自己資本比率は、健全な銀行の基準である4%(国内基準)の2倍以上の8.5%以上を確保できる見込みであり、健全な経営体質を維持しております。

なお、連結業績予想の修正については、個別業績予想の修正を主因とするものであります。

2. 平成21年3月期第2四半期末の有価証券評価損の総額

【単体】

(A) 平成21年3月期第2四半期末の有価証券評価損の総額	8,900百万円
(B) 平成20年3月期の純資産の額 (A/B ×100)	67,527百万円 (13.2%)
(C) 平成20年3月期の経常利益額 (A/C ×100)	2,191百万円 (406.2%)
(D) 平成20年3月期の当期純利益額 (A/D ×100)	1,031百万円 (863.2%)

(ご参考)当行の第2四半期末は、9月30日であります。

以上